

第3学年 図画工作科学習指導案

指導者 石井 都

1 題材名 「光の色がきれいにかがやく世界をつくろう」

2 題材について

(1) 図画工作科の本質に迫る題材構想

本題材は、学習指導要領A表現(2)「感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する」のイ「表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと」を基に設定している。

本題材では、簡易ライトや懐中電灯などの光源とトレーシングペーパー、色セロハンを使って、光と色の美しい作品づくりを行う。

光を扱うこの題材は、トレーシングペーパーや色セロハンなどがつくる光と影（セロハンを重ねることによってできる色の濃さも関係する）を楽しむことができ、子どもの主体的な表現が期待できる。また、自分なりのイメージになるように材料を試したり、つくり方を変えたりして工夫することができ、造形的なものの見方や考え方を養うのに適した題材である。

(2) 期待する問題解決的思考

図画工作科において期待する問題解決的思考とは、豊かな表現の実現に向け、創造的技能や知識をつなぎ、表したいもののために表現方法を見出す過程において働く思考のことである。問題解決過程においては、自分の表現についての問題を把握し、どのような表現方法が解決の糸口となるのかを考え、生み出すときに働く創造的思考と、どの解決方法がよいのか判断、選択するときに働く批判的思考が往々的に働くことにより豊かな表現に向かうと考える。本題材における問題解決的思考とは、材料を生かしながら光と色の美しい作品をつくっていくとする過程において、これまでの経験により獲得してきた創造的技能や既習の知識をつなぎながら、自分の表したいイメージのために色や形をどのように組み合わせるとよいのか考え、解決方法を選んだり生み出したりするときに働く思考である。

(3) 問題解決的思考を促す指導と評価

豊かな問題解決を促すためには、自分の表したい表現（表現への意欲・主体性のための内発的動機付け）があり、そのための解決方法を表現者である子どもが考え出す（思い付く）ことのできる表現の多様性と時間の確保が必要である。そこで、題材の導入では、色セロハンを通した色の美しさを感じ取ることのできる作品例を提示することにより、表現への意欲を高めたい。また、個々の表したいもののイメージができたとき、クラスで表したいことを話し合う時間を設ける。表したい表現のゴール像を共有することができたとき学習の目的を示すパフォーマンス課題を設定することで自分たちが解決したい課題となる。豊かな問題解決に向かうためには、子ども自らが表現の質を問うていくような指導の在り方が必要であろう。そこで、教師のループリックには、光と色の表し方について考える子どもの思考の質を明示することで指導に生かしたい。子どもの姿をループリックで見て取り、光の色の効果について思考を促す発問や助言を工夫することにより、子どもが教科の本質に向かう適切な問題把握を行い、問題解決の質を高めることができるようにしたい。このように教師のループリックは思考の質を問い合わせ指導に生かしていくことで豊かな表現に寄与することをねらうが、子どもが表したいことのために必要な創造的技能の視点や学び方の視点も取り上げ、子どもの評価の視点としておくことで、表現を高める手立てとしたい。また、子どもの評価の視点が有効に働くために子どもの評価活動の在り方についても考慮する。交流の際には、友達の表現についてよさを語り合うとともに、どのような表現方法によって表されているのか考えることで、表現に生かせるようにする。

3 題材の目標

- ・ 表したいことを思い付き、光の色の美しさを考えて色を選んだり、形を考えたりすることができる。
- ・ 表し方について工夫したことを話し合い、色の美しさをとらえ表現に生かすことができる。

4 題材構想（全6時間）

第1次 作品例を鑑賞する。材料を試してみることでそれぞれのよさを知る。

表したいものの計画を立てる ・・・・ 2時間

第2次 材料の特長を生かし光と色の効果的な表し方を考えながらつくる ・・・・ 4時間(本時2/4)

5 本時の学習指導

(1) 目標

- 光の色が美しく見えるようにするために、影の効果的な生かし方を考えて表すことができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	問題を解決していく過程	教師の指導と評価
	<p>【パフォーマンス課題】</p> <p>光を通して見る色は、とてもきれいだな。光の色がきれいにかがやく世界をつくろう。そのために、光の色がきれいに見える方法を考えよう。みんなでアイデアを出し合い、きれいにかがやく世界にしよう。光の作品は、いろいろな人に見てもらいたいな。3年縁組にかぎり、見る人に楽しんでもらおう。</p>	<p>○前時までに、光の色がきれいにかがやく世界にするために材料の特長を生かしたり、自分の表したいことに合わせて光を効果的に使ったりするよいことを共有している。</p>
<p>1 前時までの活動を振り返り、本時の課題を確認する。</p> <p>2 表したいことに合うようにつくる。</p> <p>(1) 表し方を考えてつくる。</p> <p>(2) 表現のよさについて友達と話し合う。</p> <p>(3) 自分の表現に生かせる表し方を考える。</p> <p>(4) 見付けた方法を生かしてつくる。</p> <p>3 みんなで表し方を考えつくったよさや次に生かしたいことを話し合う。</p>	<p>光を通して見る色がきれいにみえるように、材料や光（変色ライトや懐中電灯）をどのように使うとよいだろう。</p> <p>太陽の輝きや自然の美しさを表現したい。</p> <p>宇宙で輝く星やロケットなどを表現したい。</p> <p>町の明かりの美しさを表現したい。</p> <p>自分が表したいことのために光の色を生かしてつくるにはどのように表現すればよいのだろう。</p> <p>夕日の光の美しさを表現するために山を影にしているので光がきれいに見える。</p> <p>トレーシングペーパーの内側に形を貼ることで影が柔らかい感じに見えてきれいだな。</p> <p>町の明かりの美しさを表現するため中を切り抜き、セロハンを貼つていてきれいだな。</p> <p>光の色がきれいに表れるようにするには、セロハンの色の組み合わせだけでなく、影の表し方や色の濃さについても考えるとよいようだ。</p> <p>光が美しく見えるよう影をつくる場所を考えよう。</p> <p>影の柔らかい感じを出すために裏から貼ることも試してみよう。</p> <p>影の部分の切り込みを入れて光を生かしてみよう。</p> <p>色セロハンの使い方や影になるところの表し方を考えると光の色が美しく見えるな。</p>	<p>○前時までに共有した表現に生かす視点を掲示し、導入での確認や表現の際の振り返る視点とする。</p> <p>○自分の表し方の問題に気付いたとき、友達の表現から学ぶことができるよう交流が生じやすい座席にする。</p> <p>○明るいところと暗いところ（影や色の濃いところ）の効果を考えて表現している子どもの考え方のよさやそれに気付いた子どもを称賛することで表現の質を高めるための表し方に気付くことができるようになる。</p> <p>○全体交流では、根拠を話したり、表現者から表現の意図や方法を聞いたりすることで、次の表現に生かせる新たな視点として共有する。</p> <p>評：光と色の効果を考えて表現方法を選ぶ姿をループリックで見て取り、指導に生かす。</p> <p>○話し合った視点が自分の表現に生かされつつあるかどうか友達と確かめ合う時間を設けることで表現に生かせるようになる。</p> <p>○子どものループリックに基づき成果を確かめたり、次時に表現したいことを話し合ったりして、意欲を高める。</p>